親父力

母親が笑顔で子育てをするためには、一番近くにいるパートナーである父親のサポートは不可欠。
子育てを楽しみ、自分も成長しようとするカッコイイパパ「イクメン」が社会全体で増えています。

3人の子どもを持つイクメン

「仕事をして疲れて帰ってきても、子どもの顔を見るといやされます」。

そう話してくれたのは、妻と3人の女の子の5人暮らしの増田伸生さん。建築関係の会社に務め、帰宅するのは毎日午後9時から10時ごろ。土日も多く出勤する日々を送っています。忙しい毎日を過ごす増田さんですが、家に帰ると、3人の子どもの子育てをする「イクメン」です。

子どもは、幼稚園年中児の長女と2歳の次女、3月に生まれた三女。増田さんは普段一人で子育てをしている奥さんを思い、積極的に子育てをしています。

子育ては楽しいもの

増田さんは、三女のオムツ交換やミルクづくり、長女と次女の遊び相手など、自分にできる範囲で育児を行っています。「妻は日中ずっと子どもと向き合っているので、帰宅後や休日は僕の出番。子育ては、とても楽しい」と話します。長女が生まれてからすぐ、子育てに対する気負いから高熱を出したことも。「今は、肩の力を抜いて、できることをやっています」。会社の上司や同僚も子育てに理解があり、家族のイベントごとがあれば休日を調整してくれるので、たいへん感謝しているという増田さん。子育て世代のお客さんが多いことから、お客さんにも育児を理解してもらっているとのこと。

増田さんは、「家族が元気でいられるのは妻のおかげ。休日に、自宅で家族一緒に食事をしているときが幸せ。今後も妻と一緒に、子育てを楽しみます」と次女の二葉ちゃんを抱っこしながら、笑顔で話してくれました。

増田伸生さん・二葉ちゃん（白井）

協育力

子育てに悩みはつきもの。
知らない土地、初めての子育て、家族以外の知り合いがいないなど、母親を取り巻く環境は予想以上に辛いもの。それらを乗り越えることができたのは、分かり合える仲間がいたから。

みんながいるから楽しい

「みんながいると本当に頼りになるよね」。

そう口を揃えて話してくれたのは、勝間田区在住の青島さん、太田さん、村松さん。毎週月曜日に勝間田会館で開かれている移動子育て支援センターで約一年前に出会い、子育ての悩みや日々の生活について互いに話すうちに仲良くなった3人です。

旦那さんの転勤で約一年前に引っ越してきた青島さんは、「子どもにアレルギーがあるので、みんなから大丈夫な物をもらったり、親身に相談に乗ってもらったり、とても助かります」と話します。地元で育った太田さんも「子育てについて、共通の話ができるので毎日が充実しています」。県外出身の村松さんも「家族以外に知っている人がいない土地で出会う仲間は、本当に貴重な存在」と子育てに多少の不安を感じながらも、お互いに出身も年齢も異なるママ友と過ごす時間を楽しんでいます。

「主人にも相談しますが、やっぱりみんなと話すのとは別。話を聞いてもらえて、共感してくれるだけで嬉しいんですよね。集まるのが楽しい」と話すママ友の、子どもたち同士も仲良し。「私たちの仲の良さを察してか、子ども同士も仲が良いんです」。

皆さんは、互いに協力し合い、みんなで子育てをしています。

仲間で育て合う

青島美幸さん・宗之亮くん　太田彩子さん・星ちゃん・空くん
村松　史さん・かやちゃん　（勝間田）　＊左から順に

祖父母力

核家族化が進み、夫婦共働きが増えている中で祖父母による「孫育て」が注目されています。あくまでも、子育ての主役は親。子育て親子にとって、「時には影となり、時には日向となる」。祖父母には、そんな役割が求められています。

あくまでも相談役

男子二人の子育てを終え、母親と暮らしている牧田信彦さんと妻の康恵さん。隣の家に住む息子夫婦の子ども、愛菜美ちゃんと触れ合うことが大好きな「じぃじ、ばぁば」です。

「子どもが兄弟なので、女の子と接するといやされますね」と初孫の愛菜美ちゃんを見ながら話す牧田さん夫婦は、二人とも会社勤め。息子の妻、明菜さんが4月に次女を出産したばかりのため、二人は仕事を終えた後や休日に孫の世話をしに息子の家へ。

信彦さんは、「仕事上、共働きの私たちは子育てを親に任せきりでした。子どもと接することは少なかったですね」と子育て時代を振り返り、康恵さんは、「孫の場合は、一歩引いた状態で見ることができ、自分の子育ての経験に新しい発見が加わるので楽しい」と話します。

自分たちが子育て全てをやるべきではないと言う牧田さん。「祖父母は、あくまでも相談役。あまり干渉せず、必要なときに口や手を出す。親の意見や考えを尊重しないと」と、孫の育て方について話します。母親の明菜さんは、「面倒を見てくれるので、本当に助かります。子どもも、じぃじ、ばぁばが大好きです」と話します。

みんなで見守ることが大切

「大きくなったら、孫を動物園や、いろいろな所へ遊びに連れて行きたい」と話す牧田さん。愛菜美ちゃんが「じぃじ。ばぁば」と覚えたばかりの言葉で呼び掛けると、自然に顔がほころびます。

「私たちだけでなく、両方の家族や地域など、みんなで子どもを見守っていくことがこれからは大切」と話してくれました。

孫育て

牧田信彦さん・康恵さん・愛菜美ちゃん（静波）

地域力

時代は変わっても、子どもは「地域の宝」。
豊富な経験と知識を持つ地域の皆さんは、子育てを支える大きな力になります。
地域のつながりが薄れていると言われている今こそ、「地域力」の出番です。

子どものときの体験がその後の生きる力になる

釣漁具店を営む傍ら、子どもまきのはら塾塾長や生涯学習ボランティアグループ「スマイル」として活躍している宮崎純さん。さまざまな体験を通じ、子どもたちに人と関わることの大切さなどを伝えています。

「子どもは地域の宝。地域で愛されて育てば、大人になったときに苦難を乗り越える力を持つことができる。その子には、故郷という『帰る場所』があるから」と話す宮崎さん。

子どもたちへの取り組みを始めたきっかけは、自身が5歳のときに波津の海で初めて魚を釣り上げたときの感動が忘れられず、今の子どもたちにも自分と同じ感動を味わわせたかったから。「魚を釣った時や何かを発見したとき、子どもたちの目は本当にきらきら輝くんですよ。それを見ると本当に嬉しいですね」。

子どもたちの中には、宮崎さんに悩みごとを相談する子も。普段の活動で信頼関係がしっかりとできている証拠ではないでしょうか。宮崎さんは「普段から私たち地域の力を頼りにしてもらいたい」と話しました。

親子の笑顔が元気の源

「子どもだけが楽しんでもだめ。親子で同じ体験をして感動を共有するから、親子が一緒に元気になれる。地域とのつながりも大事。普段から地域の人とのつながりがあれば、有事の際にも助け合えますから」。

宮崎さんはこうも話してくれました。「子どもたちには自分を愛する子になってほしい。そして、笑顔で地域を元気にしてほしい。私たち地域の大人がすることは、子どもたちの笑顔と成長を見守ることです」。

地域で育てる

宮崎　純さん（波津）